

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16109003	老化における核内受容体とその標的因子の分子作用メカニズムの解明	井上 聡（東京大学・医学部附属病院・特任教授）	A
<p>本研究は、老化や老年病の制御因子としての核内受容体の働きに着目し、標的因子や共役因子の解明など作用メカニズムを解明し、個体や臓器の老化における役割を解明することを目的としている。</p> <p>その主な研究成果として、1) ビタミンKがステロイド・薬物レセプターSXRを介して骨におけるコラーゲンなどの細胞外マトリックス蛋白誘導を促進することを見出し、ビタミンKの新しい作用機構を明らかにした、2) エストロゲン受容体標的因子であるリンクフィンガー蛋白Ffpが、乳癌の新たな予後因子となることを示した。3) 前立腺がん促進におけるアンドロゲンの標的としてアミロイド前駆体を同定した等の成果が評価される。研究成果の学術的価値及び関連分野への波及効果ともに期待通り研究が進展したと評価できる。</p>			